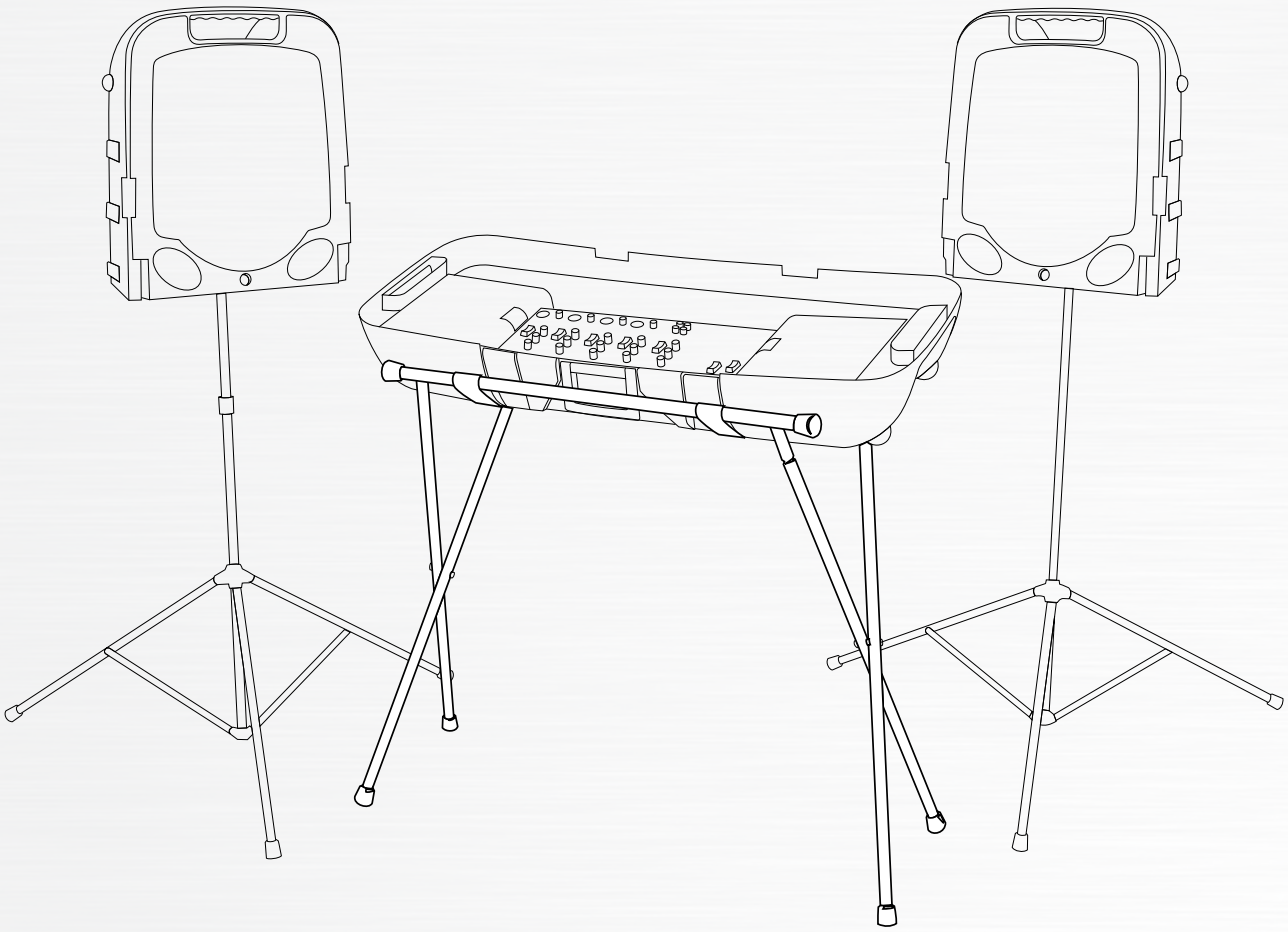
Escort® 6000
Portable PA System

Operating Manual

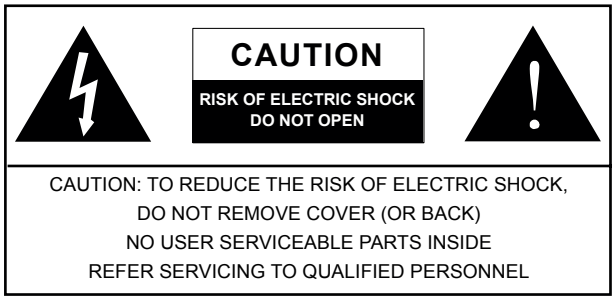


www.peavey.com

安全上のご注意

当製品を安全かつ正しくお使い頂く為に、「安全上のご注意」及びこの取扱説明書を必ずお読み下さい。
お読み頂いた後は、保証書と一緒に大切に保存して下さい。

1. この取扱説明書に従ってご利用下さい。
2. 温度の高い場所(直射日光が当たる場所や暖房器具の側など)や、湿度の高い場所(水気の近くや雨中などの濡れる場所)でのご使用・保管はお止め下さい。
3. 当製品を改造・分解しないで下さい。
4. 当製品は精密機器です。強い振動や衝撃を与えると内部に異常をきたす恐れがあります。運搬、ご使用の際の振動や落下に十分ご注意下さい。
5. 長時間ご使用されない時は、電源の元となる電源コードをコンセントから抜いておいて下さい。
(乾電池をご使用頂く製品は乾電池を取り外して下さい)
6. 100V 50/60Hzの定格電圧でのみご使用下さい。
7. 換気を必要とする機器は通気口を塞がない様にお気をつけ下さい。
8. 機器同士をケーブルで繋ぐ際は、全ての機器を繋ぎ終えた上で、電源を入れて下さい。また、電源を入れる前に機器のボリュームが最小値になっていることを確認して下さい。
9. 電源コード及び接続部には負荷がかからない様ご注意下さい。
10. 修理が必要な場合は、ご購入頂きました販売店様へご連絡を頂き、修理依頼をお願いします。
保証書が無い場合は保証が適応されませんので、大切に保管して下さい。



このマークは、製品の筐体の内部に電圧が流れており、感電する危険があることを示しています。

このマークは、付属の取扱説明書に大切な安全上の注意や操作方法が記載されていることを示しています。

Escort® 6000
ポータブル PA システム

この度は、Peaveyがその品質を世界に誇るポータブルPAシステム、Escort® 6000をお買い上げいただきありがとうございます。

Escortのトータルデザインテーマは、持ち運びのしやすさとユーザーフレンドリーな操作性で、学校や小規模な会合などでの使用に最適なシステムになっています。Escortの特徴として、9チャンネル・パワードミキサーでドライブする2-wayスピーカーが２本あり、ボーカルや音楽グループ、DJ等多種の用途に使用出来ます。ミキサーは、メディアチャンネルが複数の入力・再生オプションやBluetooth®にも対応し、デジタルエフェクトセクション/フットスイッチ対応エフェクト/FLS®(フィードバックロケーティングシステム)を備えたマスター7-bandグラフィックEQなど、プロ仕様の機能となっております。またキャリングケースには、マイクやケーブルなども収容できます。更にEscortのケースは、スピーカーを取り付けるためのラッチ(留め金)や様々な運搬状況に対応したハンドル、移動に便利なホイール(車輪)を備えております。この取扱説明書をよく読み、Peavey Escort6000の機能をお楽しみください。

特徴:

- 利便性の高いパッケージタイプ(スーツケーススタイルのホイール(車輪)付)
- 2-wayスピーカーシステム (10" ウーファー、ピエゾ・ホーン)
- 9チャンネル・パワードミキサー
- USBメモリーによるMP3音源再生
- Bluetooth®対応
- 高品質デジタルエフェクト
- 7 x XLR - 1/4" コンビネーションインプット
- ステレオ RCAインプット、φ3.5 mmステレオプラグインプット、USBメディア入力/再生
- 7-bandグラフィックEQ(FLS®機能)
- 2 x 折り畳み式スピーカースタンド
- 2x 4.5m スピーカーケーブル
- サブウーファー・アウト
- ラインレベルのモニター・アウト
- キャリングケースにマイク、ケーブルなど収容可能
- フットスイッチ対応エフェクト
- "PVシリーズ"マイク/ケーブル **(別売)**
- ミキサースタンド **(別売)**

セットアップガイド

注意！　安全を最優先に
Escort® のセットアップ方法は、従来のPAシステムのセットアップと似ています。常に安全を第一に考えてセットアップして下さい。電源ケーブルのアース線を接地させてご使用下さい。また危険な状態や転倒を防ぐようにPAシステムのケーブルを配線し、必要に応じて固定します。またスピーカースタンドとミキサーは、表面が平らで安定した場所に置きます。このガイドラインを守ることで、使用者の怪我や機器の破損を防ぎ、製品を故障なく長く使用することができます。

ミキサーとスピーカーのセットアップ

スピーカーが上側に来るように、本体をケースに入った状態で設置します。それからケースのラッチ(留め金)を持ち上げて外し、スピーカーをケースから取り外します。

注意：スピーカーを取り外すとラッチが閉まります。これは他の内容品を取り外す際の邪魔になるのを防ぐためです(またラッチの破損も防ぎます)。ラッチを閉めるには、ケースの側面に平らにに揃うまで押し、ロックされるまで押し下げます。

スピーカースタンドをケースから取り出します。スタンドの脚が十分に伸びていて、スピーカーの土台として安定していること、平らな面にあることを確認します。ベースの蝶ネジを締めます。締め付けすぎないように注意してください（図 1）。スピーカースタンドを必要な高さまで上げ、蝶ネジを締め、図のように安全ピンを取り付けます（図 2）。

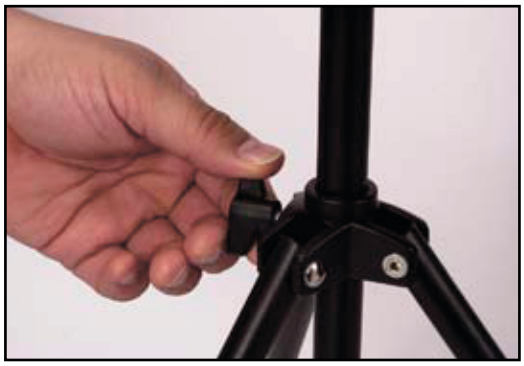


図 1

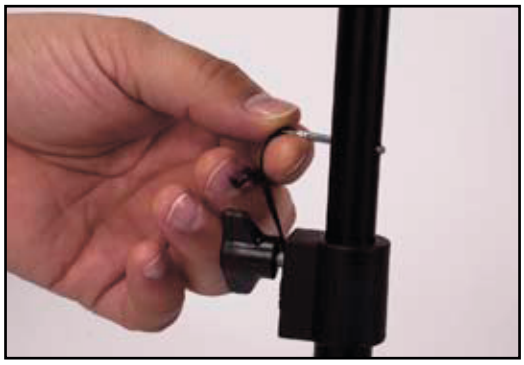


図 2

スピーカーをスタンドに置き、聴き手の方を向くように、マイクから離して配置します（図 3）。スピーカー下前面にあるジャックからミキサー背面にあるスピーカー出力にスピーカーケーブルを接続します。左スピーカーは「左出力」に、右スピーカーは「右出力」に接続します（図 4）。

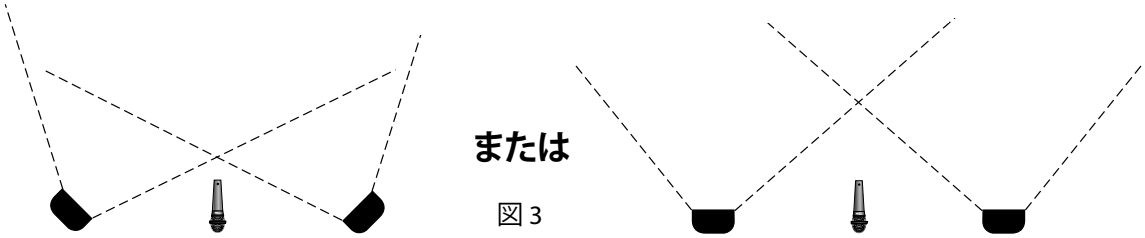


図 3

図 4

警告！ ミキサーには付属のスピーカー以外のスピーカーを接続しないでください。Escort スピーカーはパワードミキサーに最適な負荷に設定してあり、他のスピーカーを使用すると機器が破損することがあります。

パワード・サブウーファーの接続

Escort6000は、サブウーファー・アウトを装備しています(クロスオーバー周波数は100Hzです)。このアウトプットからの信号はラインレベルなので、パワードのサブウーファーか、パッシブのサブウーファーを駆動するパワーアンプが必要になります。Escortまたはサブウーファーの電源がオフになっていることを確認してから、1/4"スピーカーケーブルをEscortのリアパネルにあるサブウーファー・アウトに接続します(図5)。それからケーブルの反対側をパワード・サブウーファーまたはパワーアンプのインプットに接続します。

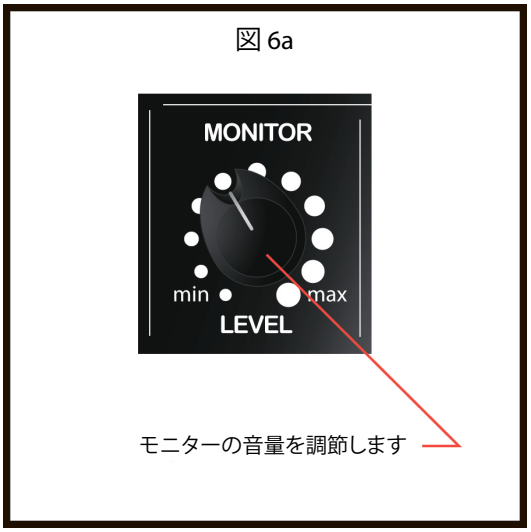
図 5

モニターの接続

Escort6000は、フルレンジのラインレベルのモニター・アウトを装備しています(演奏中にモニタリングが必要な際に使用します)。このアウトプットからの信号はラインレベルなので、パワードのモニターか、パッシブのモニターを駆動するパワーアンプが必要になります。Escortまたはモニターの電源がオフになっていることを確認してから、1/4"スピーカーケーブルをEscortのリアパネルにあるモニター・アウトに接続します(図6)。それからケーブルの反対側をパワード・モニターまたはパワーアンプのインプットに接続します。またこのアウトプットから外部ミキサーに送ったり、レコーディング機器でフルレンジの信号を録音することが出来ます。モニターミックスの音量は、マスター・モニター・コントロールで調節できます(図6a)。

図 6

図 6a

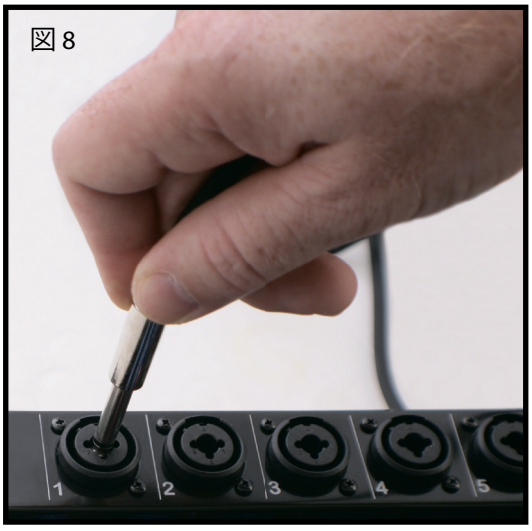


マイク/ライン入力の接続

Escort パワードミキサーは、Peavey PV®i マイクなど、より品質の高いバランスド型/ダイナミック/コンデンサタイプのマイクに対応するように設計されています。図のように、XLR(3ピン) 入力コネクタにマイクを接続します(図 7)。複数のマイクを使用する場合、各マイクを調整しやすいように、ステージ上と同じ順序で接続します。キーボードなどのラインレベルの機器を接続する際は、1/4" ケーブルを使用し、図のように、XLR-1/4" コンビネーションコネクタの中央に接続します(図 8)。

図 7

図 8



ブルートゥース用アンテナのセットアップ

警告！アンテナを取り付けする前に、電源スイッチが「オフ」位置になっていることを確認します。

Escort6000はBluetooth®に対応しています。
受信感度向上のために、Escort6000のリアパネルにあるアンテナ接続コネクタ部の保護キャップ（図A）を外して付属の専用アンテナを取り付け（図B）します。

Bluetooth®の接続方法（ペアリング）については取扱説明書の「メディア」の項で記述されています。

☆「Bluetooth®」とは
デジタル機器用近距離無線通信の規格のひとつです。機器間の距離がおおよそ10m以内であれば、ペアリングをした単一機器とワイヤレスで接続して音声やデータの通信を行う事ができます。

図A

保護キャップを取り外します

図B

付属のアンテナを取り付けます

メディア(音源)再生機器の接続

Escort パワードミキサーはさまざまなメディア(音源)再生機器に対応します。CDプレイヤーやレコードプレイヤーを接続するには、チャンネル8のRCAジャック(L/R)を使用します。MP3プレイヤーやスマートフォンを接続するには、3.5 mm ステレオジャックを使用します。MP3などのオーディオファイルを保存したUSBメモリスティックを使用する場合、USB/Bluetooth®ボタンが押し込んだ状態(USB選択)になっていることを確かめてからチャンネル9のUSBコネクタにセットし、マスターセクションの画面とコントロールを使い、オーディオファイルを選択・再生します(図 9)。尚、Bluetooch®の接続方法についてはこの取扱説明書の「メディア」の項で後述されています。

図 9

電源の接続

警告!電源を接続する前に、電源スイッチが「オフ」位置になっていることを確認します。

図のように、付属の電源コードを本体のバックパネルにある電源コネクタに接続します(図 10)。

図 10

基本操作

コントロールの設定/本体電源の入れ方

コントロールの設定/本体電源の入れ方電源を入れる前に、すべてのスピーカー、マイク、その他の入力機器が接続されていることを確認します。
マスターセクションのコントロールを12時の位置にセットし、他のコントロールはすべて下げます(左に回し切ります)。電源を入れるには、ミキサー背面にあるON/OFF スイッチ(図 11)を ONの位置にします。

図 11

基本操作(続き)

ゲイン、ボリュームコントロールの調節

パワードミキサーと付属スピーカーの最適設定は MASTER LEVEL コントロール(図 12)に示してあります。ボリュームの調節は「チャンネルレベル」コントロール(図 13)で行います。「チャンネルレベル」を最初の3つの位置のどれか1つに下げた状態で目的のボリュームが得られる場合、「チャンネルレベル」を上げられるように(調節できるように)「マスターレベル」を下げます。「チャンネルレベル」が最大に近い状態で目的のボリュームが得られる場合は、「チャンネルレベル」を下げられるように「マスターレベル」を上げます。この操作はミキサー機能に共通です。

図 12

○印が最適設定範囲

トーンコントロールの調節

目的のサウンドを得るには、チャンネルごとに HIGH、MID-MORPH®、LOW コントロールを調節します(図 13)。この調整では極端な設定は避けてください。コントロールを極端な設定にすると、音が歪んだりマイク入力のハウリングが大きくなったりすることがあります。

HIGH

トレブル周波数 (+/-15 dB / 12 kHz) を変え、ソースの質に応じてノイズを除去したり信号にブリリアンスを加えたりするハイ EQ シェルヴィングタイプのアクティブトーンコントロールです。

MID-MORPH®

ミッドレンジコントロールはほとんど、1つの周波数だけに有効ですが、ミッドモーフは2つの周波数で有効です。左に回すと、250 Hz でカットし、音が濁る周波数を減らします。右に回すと、4 kHz でブーストし、ボーカルにメリハリをつけます。どちらの場合もボーカルや楽器の輪郭を際立たせます。

LOW

シェルヴィングタイプの EQ です。低周波レベルを調節します (+/- 15 dB/80 Hz)。ロー EQ は、音に厚みのない信号に深みを加えるか、音の濁った信号をクリーンにします。他の EQ と同じく控えめに使用します。この EQ が多すぎると、低音がブーンと大きく響くこともあります。

図 13

トーンコントロール

チャンネルレベルコントロール

エフェクト

エフェクト設定の調節

Escort はデジタルエフェクトを内蔵しています。このエフェクトは、「マスター」セクションで「エフェクト選択」ノブを左右に回して選択します(図 14)。エフェクトが画面に表示されたら、ノブを押して「イン」にし、エフェクトをオンします。エフェクトパラメータを調節するには、「パラメータ調節」ボタン(図 14)を押します。調整内容が画面に表示されます。「エフェクト選択」ノブを左右に回してパラメータを調節し、「パラメータ調節」ボタンまたは「エフェクト選択」ノブを押してエフェクト選択画面に戻ります。所定のチャンネルでエフェクトを調整するには、「チャンネル EFX」ノブを左に回してエフェクトを少なく、右に回してエフェクトを多くします(図 15)。マスターセクションにある「EFX ミュート」ボタン(図 14)はすべてのチャンネルのエフェクトをミュートします。メディア(音源)チャンネルにはエフェクトはありません。

図 14

押して全チャンネルのエフェクトをミュート

押してパラメータ調節モードに

ノブを回してエフェクトを検索し、ノブを押して
"イン" にしてエフェクトを選択

フットスイッチ対応エフェクト

この新しい Escort にはフットスイッチで操作可能なエフェクトがあります。市販のアンラッチタイプ(モーメンタリータイプ)のフットスイッチを使用して、すべてのチャンネルのエフェクトをミュートすることができます。フットスイッチから Escort ミキサー背面にある「EFX DEFEAT(エフェクトディフィート)」ジャックに1/4" プラグをセットします(図16)。接続後、フットスイッチのボタンを押すと「EFX ミュート」が切り替わります(図 14)。

図 15

チャンネルエフェクト
コントロール

使用できるエフェクト、パラメータ

画面上の名前	エフェクト	使用できるパラメータ
1 REV Plate Br1	**プレートリバーブブライト**	**Time(タイム)**
2 REV Plate Br2	**プレートリバーブジェントルローパス**	**Time(タイム)**
3 REV Plate Med	**プレートリバーブミディアムローパス**	**Time(タイム)**
4 REV Plate Dk1	**プレートリバーブハードローパス**	**Time(タイム)**
5 REV Plate Dk2	**プレートリバーブダーク**	**Time(タイム)**
6 REV Vocal	**ホールリバーブボーカル**	**Time(タイム)**
7 REV Vocal Big	**ホールリバーブボーカル大**	**Time(タイム)**
8 REV Vox Warm	**ホールリバーブボーカルグロー**	**Time(タイム)**
9 REV Strings	**ホールリバーブストリングス**	**Time(タイム)**
10 REV Lg Brass	**ホールリバーブブラスホール**	**Time(タイム)**
11 REV Vox Air	**リームリバーブボーカルエアー**	**Time(タイム)**
12 REV Vox Club	**リームリバーブボーカルクラブ**	**Time(タイム)**
13 REV Snare	**ルームリバーブスネアロー**	**Time(タイム)**
14 REV Ac Guitar	**ルームリバーブアコースティックギター**	**Time(タイム)**
15 REV Sm Brass	**ルームリバーブブラス**	**Time(タイム)**
16 ENH Tube	**エンハンサチューブディストーション**	**ブライトネス(音の明るさ)**
17 ENH Vocal 1	**ボーカルエンハンサ** Vox	**ブライトネス(音の明るさ)**
18 ENH Vocal 2	**ボーカルエンハンサ** Vox **ミディアム**	**ブライトネス(音の明るさ)**
19 DLY Double	**ディレイダブル**	**Time(タイム)**
20 DLY Slap	**ディレイスラップバック**	**Time(タイム)**
21 DLY BRT 1	**ディレイブライト、リピート少**	**Time(タイム)**
22 DLY BRT 2	**ディレイブライト、モアリピート**	**Time(タイム)**
23 DLY BRT 3	**ディレイブライト、リピート多**	**Time(タイム)**
24 DLY Dark 1	**ディレイダーク、リピート少**	**Time(タイム)**
25 DLY Dark 2	**ディレイダーク、モアリピート**	**Time(タイム)**
26 DLY Dark 3	**ディレイダーク、リピート多**	**Time(タイム)**
27 CHO Deep Slow	**コーラスハイデプス、スローレート**	**Rate(レイト/スピード)**
28 CHO Mod Wide	**コーラスモデレートデプス、ワイドレート**	**Rate(レイト/スピード)**
29 CHO Shrt Wide	**コーラスショートデプス、ワイドレート**	**Rate(レイト/スピード)**
30 CHO Shrt Fast	**コーラスショートデプス、ファストレート**	**Rate(レイト/スピード)**
31 CHO Deep Mod	**コーラスハイデプス、モデレートレート**	**Rate(レイト/スピード)**

図 16

フットスイッチジャック

メディア

メディア(音源)ソースからの再生

先に述べたように、メディア(音源)ソース機器をセットします。RCAジャックにCDプレイヤーを接続する際は、RCAジャックが有効になるようにボタンを押してボタンを上の位置にします(図 17)。どの入力を使用できるかは、マスターセクションの画面に表示されます。USBメモリ内メディアの再生、一時停止、早送り、巻き戻しなどの機能を使用するには、ソースデバイスのコントロールを使います。サウンドを調節するには Escortミキサーのチャンネル7のコントロールを使います。MP3プレイヤー、スマートフォンなどのメディア(音源)を再生するには、ボタンを上の位置にしておきます。先に述べた 3.5 mm ステレオケーブルを使って接続し、ソースデバイスを使って再生状態を調節します。3.5 mm ジャックに機器が接続されているとき、RCA ジャックは自動的にオフになります。MP3やオーディオファイルをUSBメモリスティックから再生するには、USBプラグがオンになるようボタンを下の位置(=インの状態　図 18)にしておきます。現在アクティブになっているデジタルインプットUSBまたはBluetooth®)はマスターセクションの液晶ディスプレイに表示されます。Bluetooth®音源の再生方法については後述されます。

注: Escort では、複数の音源を同時に再生することはできません。

USBデバイスを接続した状態で、「メディア選択」ノブ(図 19)を使い、オーディオファイルを検索します。目的のファイルが画面に表示されたら、「メディア選択」ノブを押してファイルを選択します。再生、一時停止、早送り、巻き戻しなどの機能を使用するには、ミキサーのコントロールを使います。ファイルの検索や選択をしない場合、EscortはUSBメモリデバイスに保存された順序でファイルを再生します。

検索時にはオーディオ以外のファイルも表示されますが、選択してもオーディオは再生されません。再生のために選択できるのはオーディオファイルだけです。

サポートされるオーディオファイルのタイプ

.WAV
.MP3
.WMA

Bluetooth®について

Bluetooth®/USB選択スイッチ
チャンネル9の音源を選択するスイッチです。スイッチが押し込まれた状態では、音源はUSBが選択されます。液晶画面は"Insert USB drive"と表示し、準備が出来ていることを示します。ボタンが上がっている状態では、音源はBluetoothが選択されます(液晶画面では"Bluetooth Input"と表示されます)。

Bluetooth Active(アクティブ)LED
青い"Bluetooth Active"LEDは、Bluetooth音源の接続状態を示しています。LEDが消えているときはオフ、点滅しているときはEscortがどの機器とも接続されていないことを示します(接続可能状態です)。LEDが続けて点灯しているときは、Bluetooth音源がEscortと有効に接続されていることを示します。

Bluetoothの操作について
Bluetoothのワイアレス接続を使用して音源を再生するには、Escort6000とお持ちのBluetooth電話または機器とリンクさせなければなりません。

まず最初に、Escort6000とリンクさせるBluetooth機器の電源を切ります。
次に、その機器の電源を入れます。
Escort6000が接続準備が出来ているか確認します。
Bluetooth/USBスイッチを上側(押し込まれていない状態)にします。
Blutoothアクティブ LEDが点滅します。
液晶画面上に、"Bluetooth input"と表示されます。

Bluetooth機器を"seach"モードにします(機器がEscort6000を検索し始めます)。
検索結果が出たら、"ES6000"を選択します。
"OK"または"Yes"を選択し、Escort6000と機器をリンクさせます。
リンクに成功すると、Bluetoothアクティブ LEDが点滅から点灯に変わります(Escort6000でBluetooth音源の再生が可能になります)。尚、再生時の音量はチャンネル9のレベルコントロールで調節可能です。

注:ワイアレスでカバーされる範囲は、Bluetooth機器そのものの品質や環境によって変化します。

図 17

図 18

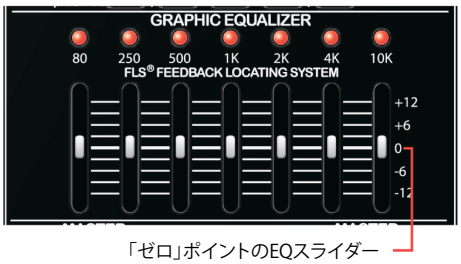
図 19

イコライゼーション

Graphic Equalizer の使用

各チャンネルの HIGH、MID-MORPH、LOW コントロールは、それぞれの入力信号のトーンを調節するだけですが、7バンドグラフィックイコライザは、パワードミキサーの中を通るすべての信号のトーナルバランスを調節します。このグラフィックイコライザはまた、ハウリング（アコースティックフィードバック）をなくすあるいは少なくするためにも使用できます。これにより、サウンドを柔軟に調節できるようになりますが、過度な調節は避けてください。

図 20



「ゼロ」ポイントのEQスライダー

FLS® Feedback Locating System

FLS(フィードバックロケーティングシステム)LED インジケータは、ハウリングを減少させる上で重要なツールです。ハウリングは、スピーカーからの音がマイクに再び入る結果、サウンドシステムから聞こえるキーンという大きな軋み音です。FLS 機能を使用するには、最初にグラフィックEQ のスライダー(図 20)をすべて 0 にセットします。次に、ハウリングが起こるまで「マスターレベル」や「チャンネルレベル」を上げます。どのLED が点灯するか確認した上で、対応するスライダーを少し下げます(これによりハウリング周波数でのゲインが下がります)。この操作を必要に応じて繰り返すことで、ハウリングが起きる前にゲインを改善できます。ただし、音質を損なうことのないように、スライダーは少しずつ調節します。

使用のヒント

ハウリングを避ける

ハウリングを扱う上で最適な方法は、イコライゼーション(EQ)の調節で済ませる前に、システムのマイクとスピーカーの配置を調べることです。音がオーディエンスの方に向けられ、マイクから離れるようにスピーカーが配置されているか確認します。マイクは、できるだけ音源に近づけて配置します。マイクを近づけると、ゲインを上げる必要がなく、システムの音量が大きくなります。

マイクの使用に関するガイドライン

もし可能であれば、マイクの使用は1本が望ましいです。マイクを増やすと、スピーカーから拾う音が多くなり、ハウリングを防ぐために各マイクを下げなければならなくなります。ただし、1 本のマイクでは各人のレベルのバランスをとるのが難しい場合や十分なゲインが得られない場合には、マイクを増やすことはメリットになります。たとえば、シンガーそれぞれにマイクを持たせれば、各シンガーにかなり近づけてマイクを配置できます。これはマイク側の音量を上げることになり、複数のマイクを使用するデメリットをかなり相殺できます。また、各マイクのボリュームを個別に調節して適切なバランスをとることができます。

Escort® のパッキング

Escort のメリットは少なくありません。サウンドシステム全体を、簡単に移動できるケースの中に収容できることもその1つです（図 21）。まず、スピーカースタンドを折り畳み、次に、2つのストラップで収容ボックスに収めます。オプションのマイクを収容ボックスに入れ、他のボックスにケーブルを入れるか、スピーカースタンドとともに収容します。スピーカーを、表面を下に向けてボトムトレイの上に置き、4つのラッチを固定します。Escort はこれで搬送でき、また、スーツケーススタイルの車輪で移動することもできます。

図 21

アクセサリー

- マイク、ケーブル **(別売)**
- スピーカーケーブル
- スピーカースタンド

- ミキサースタンド・アッセンブリー **(別売)**

ミキサースタンドは3つのパーツから成っています(脚2対と、スタンドクロスメンバー(横材)です(図 22)。
図のように、脚ソケットを合わせてスタンドクロスメンバーを持ちます(図 23)。一方の脚 1 対をクロスメンバーに完全に差し込みます(図 24)。クロスメンバーを合わせて持ったまま、床面で脚をセットし、もう一方の脚一対を差し込みます。スタンドを移動する場合は、脚を持って折り畳んで運びます。

警告: 安全のため、ミキサースタンドは完全に開き、安定した平らな面に置いてください。

図 22

図 23

図 24

Escort® 6000 **トラブルシューティングガイド**

問題	**確認**	**処置**
音が出ない （LCDが点灯しない）	電源スイッチは入っていますか？ ラインコードは電源コンセントに接続されていますか？	電源スイッチを入れ、電源コードをコンセントに接続します。
音がしない （LCDが点灯しない）	「マスター」、「チャンネルゲイン」のコントロールは上がっていますか？	「マスター」、「チャンネルレベル」両方のコントロールを必要なレベルまで上げます。スピーカー接続を確認します。マイクスイッチを入れます。マイクまたは音源の接続を確認します。
エフェクトがない	チャンネルのEFXコントロールは上がっていますか？ マスターの「EFX ミュート」はオンですか？ メニューのエフェクトが選択されていますか？	マスターエフェクトメニューでエフェクトが選択されていることを確認します。マスター「EFX ミュート」をチェックします。LED が点灯していれば「EFX ミュート」はオンです。オフにするには「EFX ミュート」ボタンを1回押します。オーディオエフェクトが聞こえるまでチャネルの EFX コントロールを調節します。
USB メモリデバイスのファイルが再生されない	再生するファイルは選択されていますか？ オーディオファイルは対応フォーマットですか？	「メディア選択」ノブを回してファイルが表示され、次にノブを押してファイルが選択されることを確認します。オーディオファイルのフォーマットが正しいか確認します。本書で先に述べたサポートされるオーディオフォーマットのリストを参照してください。
スピーカーからのハウリングまたはキーンという音が大きい	「チャンネル」または「マスターレベル」のコントロールが下がっているときに音がしない場合はハウリングです。	マイクのゲインを小さくします。マイクをスピーカーの後ろまたはスピーカーからさらに離して配置します。EQ の FLS ランプをチェックし、スライダーのレベルを下げます。
音が歪む	「チャンネルゲイン」をかなり高く設定していますか？	「チャンネルゲイン」を下げ、「マスターボリューム」を上げます
音が出ない (Bluetooth使用時)	"Active(アクティブ)"は点灯していますか？	Bluetooth/USBスイッチをBluetooth側(押し込まれていない状態)にします。Bluetoothは再生前にEscort6000とリンクされていなければなりません。リンクされると、アクティブLEDが点灯します。

LCD = 液晶ディスプレイ

Escort® 6000 **仕様：**

出力：	300W RMS (各チャンネル)
FREQUENCY RESPONSE :	40 Hz ～ 20 kHz (+/-3 dB)
過負荷保護：	DDT™ が10dBで動作、PA出力を制限し、スピーカーの破損につながるクリッピングを防止
歪み：	最大出力で 0.2% THD 未満
信号対ノイズ比：	88 dB マイク入力、標準
AC 電源：	100V AC 50/60 Hz
総重量： (スタンド含む)	50 lbs. (22.67 kg)
寸法 :	14.5" H x 36.75" W x 15.5" D (36.8 cm x 93.3 cm x 39.4 cm)
スピーカー：	ウーファー 10" (254 mm) ピエゾ・ホーン ツイーター

注意：製品の仕様は予告なく変更になる場合がございます。ご了承下さい。

NOTES

NOTES

NOTES

正規輸入代理店

株式会社　キョーリツコーポレーション

カスタマーサポート

〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町 1-9-11
　NEWS 日本橋堀留町ビル 10F
TEL : 03-5614-4133 FAX : 03-5614-2166
E-MAIL : support@kcmusic.jp